

坂東市合併20周年特別展

猿島阪東観音開帳記念 萬蔵院寺宝展



如意輪観世音菩薩坐像

令和7年 3月15日(土) ▶ 5月6日(火)

【開館時間】 10:00~18:30 (土日祝日は17:00まで)

【入館料】 無 料

【休館日】 月曜(祝日は開館)、祝日の翌平日



坂東郷土館ミュージズ



坂東市立資料館 〒306-0502 茨城県坂東市山2726
TEL 0280-88-8700・0297-44-0055

※最新情報はホームページをご覧ください

猿島阪東 観音開帳と 雄弁上人

12年に一度、巳年の春に開帳される猿島阪東三十三ヵ所観音霊場は、江戸時代の享保年間、生子にある萬蔵院の第52世住職であった雄弁上人の発願により創設されました。

霊場は、旧猿島郡(茨城県古河市、境町、坂東市)と旧関宿町(現・千葉県野田市)に

点在し、この期間中、観音様のお堂が一齐に開かれ、参詣によってその功德にあやかるといふ信仰が今日まで受け継がれています。

雄弁上人は、万治元年(1658)下野国都賀郡に生まれ、14歳で出家、武蔵国慈眼寺で授戒し、17歳ころから諸国の霊場で修行を積み、19歳のとき下総国金剛院住職となって荒廃した院を中興したといえます。貞享4年(1687)29歳から20年間京都に留学、帰郷して萬蔵院の住職となりました。49歳のとき、衆生救済のために立てられた大願の一つが猿島郡生子村萬蔵院を根本道場とする猿島阪東三十三札所開創であり、自ら神仏像を刻みあるいは画いて三十三札所に納め、享保10年(1725)霊場を開基したといわれます。享保12年(1727)萬蔵院に三重塔を建立、同14年(1729)円明院を再興したのち、死期を悟った上人は、石室を築いて入定されました。本年は霊場の開基から300年目にあたります。



雄弁上人による
自刻の木造坐像



札所位牌
雄弁上人が各札所に
配布した五輪塔位牌

猿島阪東三十三ヵ所観音霊場

- 1 福寿院 (野田市関宿台町)
- 2 大悲院 (野田市関宿台町)
- 3 吉祥院 (境町新吉町)
- 4 香取院 (境町塚崎)
- 5 善福院 (境町横塚)
- 6 妙法寺 (境町桶尾)
- 7 般若院 (境町志鳥)
- 8 仲山観世音 (古河市仁連 東漸寺)
- 9 久昌院 (古河市山田)
- 10 遍照寺 (古河市谷貝)
- 11 常繁寺 (坂東市逆井)
- 12 宝蔵院 (坂東市山)
- 13 福慈院 (坂東市菅谷)
- 14 慈眼院 (境町下小橋)
- 15 大照院 (境町伏木)
- 16 東光寺 (坂東市長須)
- 16 金剛院 (境町若林)
- 17 萬蔵院 (坂東市生子)
- 18 伝授院 (坂東市借宿)
- 19 東光院 (坂東市半谷)
- 20 福寿院 (坂東市沓掛)
- 21 照明院 (坂東市富田)
- 22 正万光院 (坂東市弓田)
- 23 万福寺 (坂東市駒蹄)
- 24 浄泉寺 (坂東市上出島)
- 25 延命寺 (坂東市岩井)
- 26 自性院 (坂東市馬立)
- 27 欲喜寺 (坂東市辺田)
- 28 延命院 (坂東市神田山)
- 29 泉福寺 (坂東市大谷口)
- 30 大安寺 (坂東市矢作)
- 31 観音寺 (坂東市薙打)
- 32 地藏院 (坂東市小山)
- 33 長谷寺 (坂東市長谷)
- 新8 妙音寺 (坂東市神田山)
- 新9 龍泉寺 (坂東市沓掛)
- 番外 円明院 (坂東市生子新田)
- 番外 西村観音堂 (坂東市沓掛)



雄弁堂 (円明院)



雄弁上人五輪塔

雄弁上人の事績が刻まれている。上人は死期を悟ると円明院に石室を造り、念仏を唱えながら入定されたという。



昭和16年当時の巡礼姿

かつての巡礼者は笈摺(白衣)に、菅笠、白足袋を身につけ、猿島御詠歌を唱えながら徒歩や馬車等で巡拝したという。札所に着くと、写経を納め、読経して巡礼札を納める。その印として納経帳に寺印や署名を受けるのが一般的であった。

(画像提供: 龍泉寺)



護摩壇・礼盤・脇机

県指定文化財。菊花紋と唐草の金泥金具を付した仏具で、寛永10年(1633)の銘がある。



釈迦三尊像

明治期の中央洋画壇で活躍した沓掛出身の画家、二世五姓田芳柳が生家の菩提寺である萬蔵院に献納したもの。市指定文化財。



絹本著色曼荼羅

県指定文化財。絹地に金泥で彩った金剛界曼荼羅で、鎌倉時代の作といわれる。



弘法大師 (木村武山作)



長谷寺秋景之図

土佐派の画人が江戸時代に描いた屏風絵。奈良・長谷寺の境内から門前町の賑わいなど、初瀬川沿いの風景が描かれている。

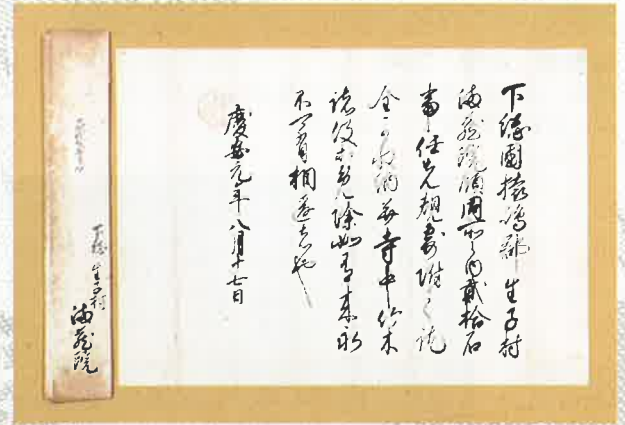
神護護国聖宝寺 慈徳山萬蔵院



萬蔵院

猿島地方有数の名刹として知られる坂東市生子の萬蔵院は、平安時代の貞観12年(870)理源大師(聖宝)による開創と伝わります。正式には神護護国聖宝寺慈徳山萬蔵院といい、奈良の長谷寺を本山とする真言宗豊山派の寺院です。大日如来を本尊とし、猿島台地のほぼ中央から四方に八間幅の道を開き、門前に街をつくり、都から工人たちを招いて、境内に七堂伽藍を造営したといわれています。江戸時代には、幕府から篤い加護を受け、二十石の御朱印を授けられました。

本展覧会では、茨城県指定文化財である「絹本著色曼荼羅」や「礼盤・脇机」のほか坂東市指定文化財「如意輪観世音菩薩坐像」、菩提寺に奉納された二世五姓田芳柳作品等を展示、紹介いたします。



御朱印状

二十石の寺領を与え、それにかかる年貢・賦役を免除するという内容の三代将軍徳川家光からの御朱印状。



昔日の松並木の参道
(昭和40年ごろ)



慈徳山萬蔵院之景
明治31年(1898)の銅版画

関連イベント

萬蔵院中川祐聖住職のおはなし

おうべんしょうにん

「雄弁上人と

猿島阪東観音開帳」

令和7年3月26日(水)・4月29日(火・祝)

両日とも午後3時から 展示室にて

申込不要 当日直接会場にお越しください



観音堂

室町末期の建築手法が用いられており、寛文3年(1663)の棟札が残る。